

【事例 H27-04-01-01】兵庫県但馬県民局豊岡健康福祉事務所

地域・職域こころの健康づくり事業
＝地域と職域のネットワークづくりの取組＝

40～60歳の働き盛りの年齢層の自殺者が増加している兵庫県但馬地域の状況を鑑みて、職域・地域の関係者が連携し、労働者のこころのケア対策の情報共有と地域課題の検討、推進方策の検討を行った。

【実施主体】兵庫県但馬県民局豊岡健康福祉事務所

【大綱の分類】心の健康づくりを進める

【事業予算】平成26年度 107千円（76千円）

【利点】

- ▼地域保健機関の立場で把握した地域の統計情報を活用している。
- ▼地域産業保健センター、労働基準協会と連携し、事業を協働で実施することができた。
- ▼地域産業保健センター、労働基準協会、豊岡健康福祉事務所の三者が事務局を担当し、年間計画、実施、評価を検討することができた。

【実施に至るまで】

【背景・必要性・理由の概要・等】

- ・平成18年度に、40～60歳の年齢層の自殺者が増加している兵庫県但馬地域の状況を分析し、地域の労働関係機関へ問題提起すると共に今後の取組について相談した。
- ・平成19年度に、地域の医師会、薬剤師会、労働関係機関、市町の賛同を得て、「地域・職域こころのケア対策検討会」を立ち上げ、地域の労働者のこころの健康課題と推進方策の検討を行った。

【計画を立てる上での工夫・等】

- ・地域保健機関の立場で把握した地域の統計情報を分類・提示し、労働関係機関と共に地域課題を考えることで、自殺予防対策の必要性の確認と動機づけを行った。
- ・また、事業（講演会、リーフレット作成等）は、構成機関と協働で企画・実施・評価を行い、地域の方言を使った親しみやすいリーフレットを作成する等、地域の現状にあった事業が積み上げられるように工夫した。当所はキーステーションとして連絡・調整を行い、構成機関の合意と協力を得て事業展開することを心がけた。

【具体的な内容・実施の過程】

【成果】

- ▼地域課題と推進方策が明確になり、地域保健と職域機関が協働して事業に取り組めた。

▼検討会構成機関のメンタルヘルス対策に関する意識や取組が向上し、タイムリーに相談できるネットワークができた。

▼講演会への参加者やメンタルヘルス対策に取り組む事業所が増加した。講演内容の希望は「うつ病等の疾患理解」から「メンタルヘルス対策の取組方法」「復職支援」「職場の環境づくり」に変化し、メンタルヘルス対策の重要性への認識が反映されてきた。

▼地域産業保健センターの「労働者のこころの健康相談会」が開催される等相談窓口が充実した。

▼40～50歳代の自殺者数が減少した。

【補 足】

▼40～50歳代の自殺者数は、H23年 13人、H24年 17人、H25年 14人、H26年 6人と減少した。

▼「私の事業所で取り組むこころの健康づくり（メンタルヘルス対策事例集）」を協働で作成した。その結果、「気づき」、「つなぐ」といった相談体制を整える事業所が増えた。

▼地域産業保健センターの相談利用者が増加した。

【課 題】

- ・メンタルヘルス対策の取組が進んでいない小規模事業所への働きかけ
- ・事業所の復職支援の充実、職場の環境づくり等、地域の事業所のニーズに合わせた対策の検討

【事業種別】 強化モデル事業

【準備期間・人数】

準備期間 8年（平成18年～25年）

人数 7人（所長、副所長、地域保健課長、地域保健専門員、保健師3人）

【予防段階】 1次

【自治体規模】 人口 553.7万人（兵庫県全体、H27国勢調査から）

財政規模 35,464億円（26年度当初予算）

【自治体負担率】 負担なし

【事業対象】 19団体（医師会2、薬剤師会、但馬労働基準監督署、ハローワーク、事業所10、市町3、健康財団但馬支部）、労働者、事業所

【支援対象】 労働者

【実施主体・問合せ先】 兵庫県 豊岡健康福祉事務所 地域保健課

【参考資料・文献】 なし

【作成日】 2016/12/14